健康最前線 現状と展望

子どもの心を理解するために

県富士児童相談所 所長 山田 昌彦

人間の行動の表れには、その行動に至る心の揺れ動きがあります。「なんでうまくいかないのかな?」「どうしてあの人は私にきつく当たるのだろう?」など日常的に経験されることと思います。

自分や他者の行動の向こう側にある心（感情・願望・欲求など）に注意を向けて理解していくプロセスを「メンタライゼーション」と言います。

例えば、赤ちゃんは不快な時に大きな声で泣いたり体を大きく動かしたりします。お母さんの心の地図〝をカガミに映し出すかのように自分のこととして広げて、大人側の意向やペースを押しつけて子どもの仕草やサインをうまく受け取ることができない環境下で養育されると、子どもの心が育まれながら次第に「おなかがすいてミルクが欲しいのかな?」「おむつが濡れて気持ちが悪いのかな」などと赤ちゃんの心の中で何が起こっているのか思いを馳せて対応していきます。

赤ちゃんは、不快が解消すると満面の笑顔を見せ、満たされた感覚をたくさん積み重ねていきます。すると〝養育者の中の赤ちゃんの心の地図〟をカガミに映し出すかのように自分のこととして広げて、大人側の意向やペースを押しつけて子どもの仕草やサインをうまく受け取ることができない環境下で養育されると、子どもたちは周囲を困らせたいのではなくて、実はどうして良いのか分からずに困っているのです。

私たちはどうしても他者の行動で善（よ）し悪しを判断しがちですが、どうぞ子どもへのメンタライゼーションに関心を寄せていただければと思います。

その結果、時に不適切な行動を見せたり、お友達と楽しく遊べなかったり、振り返ることが苦手となったりと、周囲からは『困った子ども』として映るかもしれません。場合によっては保護者も戸惑い、『児童虐待』という事象に至る可能性もあります。

問題行動を見せる